

NPO法人社会還元センター グループわ 会報

情報ギャラリー

第34号

情報ギャラリー第34号

発行日 2006年4月25日
 編集 グループわ 広報部
 発行者 納 利春
 発行元 NPO法人社会還元センター
 グループわ
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830
 Eメール group_wa@wa-net.jp
 ホームページ http://www.wa-net.jp

第1回グラウンドゴルフ大会を開催

地域の交流と会員同士の親睦を深める

サクラ満開の4月7日(金)しあわせの村球技場で「第1回各区対抗ふれあいグラウンドゴルフ大会」が開かれました。グラウンドゴルフは初めての人が多く、珍プレイが続出するなど地域の交流と会員の親睦を深める試みは大成功でした。

この日の大会を祝うように暖かいお天気に恵まれました。生きがい部会ニューススポーツグループの皆さんが早くから出て、コースの設営など準備をして頂きました。各区から3チーム15名の参加を呼びかけたのですが、予告期間が短かったので、参加チームが少なく残念でした。灘区、西区、北区から3チーム、東灘区、須磨区は2チーム、本部1チーム、個人合せ74名の参加でした。

ランティア活動に頑張ってもらいたい」と挨拶、続いてラジオ体操で体をほぐして競技に移りました。

競技は午前中、8ホールのコースを2ラウンド、午後は1ラウンドの計3ラウンド、24ホールで争われました。1チーム5名が各ホールから一斉にスタートしましたが、初めてステックを持ったという人が多く、地面を叩いたり、ティーマットを飛ばして「しまった」と嘆く人など珍プレイ続出です。2日前に雨が降った後だけに、グラウンドはデコボコだらけで、真っ直ぐ転がるボールが思わぬ方向に行ったり、くぼみでボールが停まってしまうことがしばしば。こうした



競技の前に全員揃って体をほぐす準備体操

三宅副理事長から「今回のグラウンドゴルフ大会はグループわの活動を活性化する企画として、初めて開催しました。これを会員皆さんの結束強化につなげて、これからのポ

数人のプレイヤーが1打でカップインするホールインワンを達成しました。打った本人は予想もしない出来事にただ驚くばかりですが、チームメイトたちは「やった、やった」と



青空の下、真剣なプレイが続く

大騒ぎで、なごやかなうちに競技を終りました。納理事長は「今後もこうした企画を計画したい」と挨拶したあと表彰式に移り、団体、個人の上位入賞者に表彰状と賞金が贈られました。成績は次の通りでした。

【団体の部】優勝 西区(732) 準優勝 北区(742) 3位 東灘区(819)

【個人の部】1位 吉田智彦(63、北区) 2位 清水貞子(64、西区) 3位 中川正俊(66、北区) 4位 西阪順三(66、本部) 5位 岩槻正義(67、北区) プービー賞 堺寿代(95、西区)

の三馬区会長(右) 表彰を受ける西区



(左) 個人1位の吉田さん

全員参加で総会を盛り上げよう

平成18年度 グループわ 定期総会

日時 ; 5月18日(木) 場所 ; シルバーカレッジホール

なお総会の議案書と出欠はがき等を同封しています。多くの皆様のご出席をお待ちしています。

ニーズにあったボランティアの発掘を グループわを活性化するための検討委員会を開催

理事 - 郷 肥三

運営委員会の中から9名(垣尾、松本、杉野、北田、三島、中沢、高橋、東本、郷)を理事長が推薦し、活性化検討委員会を立上げ、2月1回、3月2回、4月2回の計5回委員会を開催しました。グループわを活性化するためには、何をどのようにすればよいかについて忌憚のない意見を出しあって討論しました。

結論から述べますと本部に対する意見が多く出され、NPO法人になっても、なる前の任意団体の意識が抜けず、企画・運営がそのまま踏襲されて

いる。もう少し本部が主体性を持って各地区、部会をリードすることが必要である。

そのためには収益事業を増やして業務の安定を計りながら、会員のニーズにあったボランティア内容、魅力のある仕事を探してくる。地区会、部会の各リーダーは指導力を発揮して会を運営するとともに、スタッフを決めて運営を補佐し協力して会を盛り上げてもらう。

各地区は例会を必ず開催し、イベントや食事会など出席率を高める工夫

を検討していただき、当面目標は出席率50%とする等、一例を挙げておきます。

検討委員会のまとめは、運営委員会に提出し、総会后、出来る項目から順次実施して、グループわが少しでも活力のある組織になるように努力していきますので、会員の皆様におかれましても忌憚のないご意見とご協力をお願いします。



ご覧になってますか

グループわのホームページを

理事 - 小林 将悟

グループわのホームページ(H.P)は、神戸市しあわせの村のHPに間借りしていましたが、近く独立して逐次、画面を改善してまいります。インターネットによりグループわの活動を広報する大事な役割を担っています。HPの担当業務にはわの会員有志6名にお願いしています。

新しい情報や会員の活動状況を迅速に情報伝達します。例えば会員の皆さん側からボランティアの中身とスケジュールを知ると同時に「関心あり参加するよ」のリアクションが出来る、即ち情報の流れが一方方向だけでなく機能させ活用する事も可能です。HPを有効に機能させ活用していく為には、それなりの知恵と労力が必要です。閲覧側の関心、ニーズは？的確にとらえておく必要がありますし、コンテンツ提供側として何を訴求したいのかを明確にして置かなければなりません。

インターネットを良くご存知の皆さんは沢山いらっしゃると思います。又逆にそのような環境をお持ちでない方もいらっしゃると思いますが、先ず皆さんが関心を持ってHPを訪問してくださるようお願いいたします。

現状不備な点は沢山有ると思いますが、順次改良して参りますので宜しくお願い致します。

シルバーカレッジからのお知らせ

在校生も地域交流活動はじめる

シルバーカレッジ事務局

「地域人として、社会参加・地域貢献できるきっかけづくりの授業が欲しい」との学生の要望に応え、平成16年度から地域交流授業を組み、地域交流活動が始まっています。平成16年度は、2年生・3年生の学生が学年ごとに地域グループを結成し、地域交流活動を展開しました。

平成17年度には、前年度の活動をふり返った際の感想や提言を基に、学年の枠をはずして、全学生により、64の地域交流グループが結成されました。現在、この地域交流グループは、互いの親睦をはかると共に、クリーン作戦や子どもたちの見守り活動・イベントボランティア等々、地域への貢献活動を活発に展開し、継続活動に発展させたグループもあります。

これから地域デビューをしたいと考えておられる方、現在、すでに地域参加・参画しておられる方等、学生の皆さんの地域経験はさまざまです。すでにグループわに入会して、ボランティア活動に多忙な方もおられます。

この地域交流授業のねらいは、地域ごとにカレッジの学生相互の交流を図っていただくことだと考えています。地域の学生同士のつながりが出来ていく中で、経験者から地域人となるきっかけや、良きアドバイスが得られるだろうと思います。また、地域交流



神鉄西鈴蘭台駅の清掃をする北区の在校生

活動が、年を重ねるごとに、学生が次々と入学してこられる上に、卒業後も活動を継続され、しだいに地域に根を張り、広がっていくのではない

かと期待しています。

昨年6月の交流授業の全体会では、グループわの活動と連携をとっていただくために、グループわの地区会の説明をしていただきました。様々な形で地域とのつながりが密になり、皆さんが活気のある日々を送られ、地域社会の活性化を促進する手助けになればと願っています。

子どもたちの学習支援活動 平成18年度へのスタート!!



学童支援の現状について報告する支援者たち

西区の櫛谷小学校 支援者

仲井廣子(一般)

自分が永年やってきたことで少しでもお役に立つ場があるのならと思い、家からも近いことだからと活動を始めました。

3,4年生の算数、その後5年生にも、中学校に進んだときの刺戟に耐えられるよう計算力、集中力を付けるのが、学校のチャレンジタイムのねらいです。生々として子どもたちは頑張っています。私も子どもたちから元気をもらってよかったと思っています。



市民にカレッジの存在感が

KSC 総務課長 明石 照久

学習支援活動は皆様方のご努力によりまして、順調に推移しているということで、私ども事務局といたしまして非常にありがたくうれしく存じています。先日の卒業式で学長よりのお話にもありましたが在校中、卒業後もボランティア活動に頑張っており、特に学習支援や地域交流活動、通学路の見守りなどにより、市民の方々にカレッジの存在感が見えるようになってきたと実感しております。ひとえに皆様方の地道なご活動の成果であると感謝しています。

第3回学習支援活動登録者のつどいを開催(3月22日)

平成17年度の1年間に学習支援した学童数は14,532人になりました。

特別支援活動にあたって

KSC 教務係長 宮本 文子

皆様方には17年度から子どもたちの学習支援活動を始めて頂きまして、お世話になりました沢山の小学校になり代わりましてお礼を申し上げます。特別支援教育について学校現場では大変苦戦しておられます。昔は特殊教育、その後障害児教育、今は特別支援教育と変化してまいりました。

多動の子どもや普段生活がきちんとして来ていても勉強には入っていけない学習障害児など様々な障害をも

っている子どもたちの特別支援教育の補助をして下さいという要請です。いままで補助を試みながらうまく行かなかった例が時にあったようですが、それは支援者が熱心の余りこうしたら良いのでは、と考えて当たられることが、却って逆効果になったのではないかと思います。

たとえ反応がなくても子どもたちは支援者の思いは感じ取っているものです。担当の先生のいわれた通りに、補助して頂ければありがたいです。その子どもの立場にたって安心感を持たせてあげて下さい。

神戸市各小学校・養護学校長様

グループわ

平成18年度の学習支援申込方法について

シルバーカレッジの卒業生・現学生を中心としたNPO法人グループわは、平成17年6月に『子どもたちの学習支援活動』を立ち上げました。(平成17年度2学期活動一覧表をご覧ください) 18年度も下記要綱にて『子どもたちの学習支援活動』を実施いたしますので、支援をご希望の場合はどうぞお申してください。

記

- 1.対象・支援期間 神戸市立各小・養護学校 年間を通じて必要な時期に支援
なお、平成18年度1学期からの支援希望については、
第1次3月20日(月)までに 第2次4月20日(木)
までに、その後は随時要請書にてご連絡ください。
- 2.学習支援者 NPO法人グループわ『子どもたちの学習支援活動登録者』
- 3.申込方法 支援を希望する学校は「子どもたちの学習支援要請書」に
必要事項を記入し、グループわ本部へFAXまたは郵送。
- 4.コーディネート 要請校の連絡を受けてグループわの担当理事が当該校に
出向き、要請の詳細や条件を確認し、最適と思われる登録会
員へ連絡する。担当理事が両者の合意を確認し、さらに登録
会員があらかじめ学校と打ち合わせの上活動に入る。

垂水区の東垂水 小学校支援者

林和男(国8期)

子どもたちをより良く育てるための講演などを聞きましたが、自分の眼できちんと見てみたい気持ちで、6年生の学習、生活補助活動を続けてきました。

三学期に入ってからにはこどもが良く馴染んでくれますし、お母さんからの喜びの声も耳にしました。中学へスムーズに入っていけるよう卓球を始めました。いつまでも続けてほしいと願っていたところ、進学先の担当の先生が卓球をされるのが分り、早々からやっているようです。

この4月からは車椅子の新1年生を補助してあげたいと考えています。



国際部会

交流深めた日本料理教室 受講の外国人から礼状が届く

国6 文 黒田 宏

グループわの食文8期生、国際部会の有志が1月28日(土)東灘区民センターで「外国人のための日本料理教室」を催しました。アメリカ、カナダ、スペイン、韓国などの留学生約30名が参加して開かれたのですが、このほどグループわの事務局に、次のお二人から外国人から次の礼状が届きました。

交換英語教師

Ms Melanie Law

I enjoyed the Cooking Program for Japanese Dishes very much. I have been living in Japan for about 7 months and it has been difficult for me to cook, as Japanese kitchens are a little different than western kitchens. This program has helped me to learn how to cook some Japanese dishes some of which are easy enough for me to make on my own in my home (i.e. sweet potato dessert and vegetables). The cooking class was also a great way for foreigners to interact with Japanese people in an enjoyable and interactive atmosphere. where we were also able to practice our Japanese. I hope to be informed about other programs such as this, as I will look forward to joining you again.



日本料理教室とても楽しかった。来日してほぼ7ヶ月になるが、日本と西洋との台所の違いもあってクッキングが難しかった。この教室で2~3の日本料理を学んだが、自分の家で簡単に作れそう。

料理教室は外国人と日本人との楽しい交流の場として日本語の演習ができた。今後もこのような催しには参加したいので、知らせて欲しいものです。
(訳 副理事長 三宅 慶忠)

きて、みて、たべて、語りあおう

盛大にKOB E国際交流フェア

国8 - 国 佐伯 義昭

「KOB E国際交流フェア2006」が神戸国際交流フェア実行委員会、(財)神戸国際協力交流センターの共催で、3月25日(土)は神戸クリスタルビル、26日(日)は神戸ハーバランドのデュオドームとスペースシアターで開催されました。今年は10回目の節目で、過去最多の国際色豊かな74団体が参加しました。

テーマは「きて、みて、たべて、語りあおう」で、25日はクリスタルビルのホールで今までなかった初の「リレートーク」が開かれ、語りあおう共生の街づくりと云うことで、各団体(15団体)が多国籍の人達の日本で暮らしやすいよう、如何に活動、協力、支援しているかを報告し合いました。

26日はデュオドームの会場で各

団体のブースがあり、各々の団体が活動の写真やポスターなどをパネルで展示して一般市民に紹介していました。また屋台では多国籍料理やいろいろな民芸品なども販売されました。

わが国際部会も昨年、神戸在住留学生をしあわせの村に招いてスポーツ交流(ローンボウルス)、日本料理教室で豆腐料理での交流、外国人と日本料理教室の交流(てんぶら)、点字グループが作った英訳日本昔話の点字本をミャンマー・僧立サヤダウ・ニエヤ盲学校に贈呈したり、鷹取土曜学校で神戸在住ベトナム人子女と七夕の笹飾りを作るなどの活動の写真5点を展示しました。また「LOVE KOB E この街が好きだから」「LOVE PEOPLE人にも優しくありたい」「第二の人生を国際交流を通じてお



楽遊クラブの銭太鼓の熱演に拍手喝采

役に立てたい、たとえ小さくても」などのパネルを展示しました。見事な写真とポスターの作成に携わっていただいた部会員に感謝申し上げます。配布資料としてNPO法人社会還元センターグループ

神戸外大留学生

エステル・ゴメツ

何時ものようにグループわのイベントは面白く、参加者は皆日本料理を楽しみながら学び、一緒に食することが出来ました。今回は非常に多くの参加者があり、驚きと同時に多くの人と交流が出来ました。グループわの活動は留学生の間では非常に評判が高く、私たちにとっても多くの外国人と出会うことが出来、他国の文化に接し隣人を知る機会となりました。このイベントに参加できたことを感謝しています。



わの活動紹介冊子とシルバーカレッジのパンフレットを訪れる人に配布しました。

スペースシアターのステージでは各国民族舞踊、演奏、日本伝統紹介、国際色豊かなステージパフォーマンスが繰り広げられ、シルバーカレッジからは楽遊クラブの人たちが銭太鼓を演じていました。

最後には震災後神戸で作詞・作曲された「しあわせ運べるように」を参加者全員で合唱して終了しました。今後このような催しを通して各団体と何かで連携できるように活動をさらに充実させたいと思っています。

環境部会

楽しかった炭焼き塾

生9 - 環 長谷川 博

久し振りに青空が広がった3月5日(土)シルバーカレッジ中庭で、長寿社会開発センター後援により「親子炭焼き塾」を開催しました。この日参加された親子は25名で、シルバーカレッジの在校生を含む「ケナフの会」20数名のスタッフが指導に参加しました。

この日炭焼きに使用した竹は、さる1月17日、阪神大震災慰霊祭で口ウ

炭焼き塾の間、親たちはわが子の活躍ぶりの写真撮影に夢中でした。参加された親子の感想の一部を紹介します。

ケナフがいろいろな利用方法があるのに驚いた。地球にケナフが役立つということが分った。(10歳、男児)

炭焼きさんの苦勞がよく分かりました。これからは炭を大切に使いたいと思いました。(12歳、男児)

ケナフで作られた炭が、ほかの炭よりも消臭効果が高いこと。またケナフが壁紙や車の内装に使われていることなどを教えて頂いて大変な驚きです。(34歳、女性)



どんな炭が焼けるかな？ 炭焼き塾に参加した親子たち

ソク立てに使われたもので、それにカレッジで栽培されたケナフを使いました。スタッフたちは前日から炭化機への材料を仕込むなどの準備が大変でした。作業のはじめは手が出なかった子どもたちも、スタッフの親切な手ほどきで木槌を持っての仕込みを手伝うなど楽しそうでした。今までしたことのない作業に楽しくなった様です。準備が終わったところで炭化機に火入れしたところ、煙突から大量の煙が出たので、炭が出来上がるまで教室に場所を移しました。

紙芝居「地球くんとケナフくん」を見ながら、子どもたちと地球温暖化を防ぐにはどうしたらよいかを話し合いをしました。また炭のことについて詳しく説明をしたあと、炭化機で焼成した「竹炭」と「ケナフ炭」を御土産にして、塾は昼過ぎに終了しました。

炭焼き体験授業に参加して

生9 - 環 笹井 俊司

「学校林 再び脚光」という見出しの記事が、2月10日の日経新聞夕刊に掲載された。神戸市立君影小学校6年生が総合学習で、裏山の学校林の間伐材を使って炭焼き体験授業の様子が報道された。たまたま私が、炭焼き体験のボランティア指導をしていた時、日経新聞の記者が写真撮影して紹介されたのです。

兵庫県森林ボランティア安全リーダー養成講座に、環境部会の松本義彦会長と参加した際、君影小学校での炭焼き体験指導の要請があったのです。炭焼きは私が昔、おぼえたやり方で、窯に木材を詰め込み、火入れ、窯止め、炭だしを6年生の子ども達に伝え、うまく木炭を焼くことが出来ました。

親子環境学習講座

～こどもエコクラブのつどい～

生3 - 環 中島 洋吉

こうべ環境未来館の環境学習講座

『企業のエコ施設を訪ねよう!』を2月25日(土)神戸製鋼灘浜サイエンススクエアで実施しました。市内の児童館、小学校などを中心に107クラブ2,250名がエコクラブの登録をして実践活動をしています。

「エコスタンプラリー」対象施設の灘浜サイエンススクエアを見学することで、エコクラブ同士の交流を深め、広くエコクラブ活動について知ってもらおうと企画しました。

当日はスタッフを含む102名(子ども54名大人48名)の参加があり、魚崎、細田、渦森台、東垂水の4児童館から日頃行なっているエコ活動の事例発表がありました。

魚崎、渦森台両児童館の子ども達から「ごみ拾いでは、タバコの吸殻が一番多い」、「大人のマナーが悪い」、など耳の痛い報告がありました。1階展示室では遊びながら科学技術の面白さ、不思議さを体感しました。

また「まわす まわる」のテーマで実験があり、各種コマの回転やドラえもんヘリコプターの実験に興味深く取り組んでいました。最後に感想発表、次回の催し物の紹介を行なって、エコスクールを終了しました。

小学校に行っても驚いたことは、この学校には学校林があり、炭窯もあったことです。木炭を生産する窯ではありませんが、修理もされていた立派なものでした。

林の中のそれぞれの木に名札もつけられていました。以前、手入れのされていた時のように、もう一度立派な森を復活させようと、森の倶楽部、地域の方々、シルバーカレッジの在校生および卒業生、小学校の先生たちが努力されていました。

化石燃料の利用による地球温暖化を抑えるための植物の役目は大きなものがあります。

同校では焼いた炭を水質浄化のために役立てたいと、カスミサンショウウオが住む谷川に沈めるそうです。同校の児童たちが、今後とも木に関心を持ち続けてほしいと願っています。

灘区会

早春の灘浜緑地に歓声

バードウォッチングと植物観察

国8 - 灘 福田 望

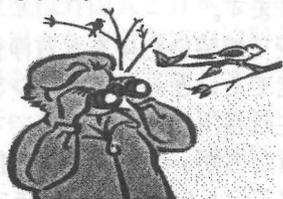
春分が過ぎたとはいえ、六甲おろしの寒風の吹く3月23日、神戸製鋼所火力発電所のノッポ煙突のすぐ西隣りの都賀川河口で、探鳥と植物観察会が開かれました。参加したのは灘児童館に通っている西郷小学校の1、2年生男女27名と引率の女先生3名、私たちグループからはバードウォッチングや植物に詳しい先生たち8名。

ちびっ子たちは河口特有の強い風にもめげず、探鳥班と植物班に分かれて、グループわが用意した双眼鏡を首にぶら下げて、あちこちにお目当ての鳥を探す。海に近いこともあってアオサギ、カワウ、セグロカモメ、ツグミ、カワラヒワなど海鳥に混じって山鳥が観察できました。子どもたちは鳥をレンズに捕らえると“ワー、ヤッター”と歓声を上げる。

一方のグループは春の花木や草花の観察で、わの先生たちに質問攻め。菜の花や大島ザクラ、シャリンバイ、四ッ葉のクローバーを探して、草花を摘んで可愛い花束をつくってはしゃいでいる。実際に四ッ葉のクローバーを探し当てた子もいた。

子どもたちは素直で、わの先生たちに何でも質問してくる。先生たちも昔の幼年時代を思い浮かべて感傷の面持ちで、正にじいちゃん、ばあちゃんと孫の会話です。自然観察を通して命の大切さを勉強した一日でした。児童館の女先生も同じように子どもにかえったように楽しんでいました。

最後にお別れで全児童が揃って「ありがとうございました」と挨拶すると、わの先生たちも一瞬ジーンとくるようでした。「また呼んで下さい」を合言葉にさよならしましたが、海側から六甲連山を眺めるとまた一味違う風景でした。



大喜びの遊喜幼稚園児たち
収穫したダイコンの前に

嬉しいダイコンの収穫

—食育ボランティア—

音8-東 藤井 潤子

兵庫県の要請で遊喜幼稚園の食育ボランティアに携わって1年目の3月9日は、ダイコンの収穫です。園児26名と一緒に畑の畝作りから始めたのが、昨年今日(本誌第30号P10参照)でした。小さなバケツに土を山盛り入れて運んでくれた姿が眼に浮かびます。

3人がかりでやっと引き抜いた大きなダイコンを手で歓声が上がります。園児達は喜びいっぱいの笑顔で、

大小合わせて23本です。この1年間、種まき、植付け、草取り、水やりなど園児達と一緒にやってきましたが、最後の収穫がダイコンでした。他にもサツマイモ、ジャガイモ等を収穫しました。

ダイコンの収穫のあと、次の年長組みになる園児がジャガイモの植付けをしました。また1年のお付き合いです。とても嬉しいです。26名の園児も4月から小学生、きっと日々食物に感謝し、生き物の生命の大切さを感じ、お友達と仲良くして小学生の第一歩を踏むことでしょう。

私達も多くを学ばせて頂きました。講師の富永征司さん(園芸7期)今年も宜しくお願いします。会員の方の参加をお待ちしています。

兵庫区会

笑いとお喋りの花見会

音2-兵 宮城 智子

年々気候が不順で心配していましたが、会員の日ごろの行いが良かったのか(?)4月6日(木)は最高の花見日和に恵まれ、ここ兵庫区のサクラの名所、会下山公園で恒例の花見会を開きました。



サクラの下で和やかに談笑

22人の会員が参加し、桜の花をめで、お酒を酌み交わし、日頃の顔と異なる一面もお互いに見せ合い、和やかに笑ったり、喋ったりで、和気あいあいと春の午後を楽しみました。

兵庫パンジーの会は親睦を深めるため新年会や、観梅、ウォークなどを2ヶ月に1度の割合で行っています。4月10日に総会も終わり、今後のボランティア活動を確認しました。

垂水区会

「官から民へ」

ボランティア交流会開く

福8 - 垂 井上 聖

2月5日(日)午前11時より、垂水区千代が丘福祉センターでボランティア交流会(参加者55名)が開かれました。

ボランティア活動の基本「協働と参画のまちづくり」をテーマに、神戸市市民参画推進局 市民活動支援課長 上田 剛弘氏に講演を依頼しました。

「官から民へ」をキーワードに神戸市の協働・参画3条例のねらいや特徴を、世界時流にそって解りやすく説明され、参加者は熱心に聴き入っていました。

また、舞子駅周辺案内ガイド担当者より、ボランティアガイド活動の状況が報告され、活動のあり方について提案されました。研修会後の懇親会(昼食会)で意見交換・情報交換なども行われ、なごやかで有意義な会でした。

西区会 会員相互扶助の実施へ

地域別ブロック割りを決める 生8 - 西 三島 隆夫

グループ わ 本部が数年前から取り組んでいる相互扶助制度について西区会では、昨年10月頃から取り組み、概略の骨組が出来つつあります。

西区では毎月“グループ わ 西区だより”を配布しています。特別な案件があれば、その都度号外を発行して働きかけています。12月には特集号を全員に配布して相互扶助についての意識向上と徹底をはかりました。

その後、アンケートを配布、集計に努めましたが、なかなか集まらず、フォローアップを実施した結果、会員117名中80名の集計ができました。結果は次の通りです。

- 1： 支援に協力する。42名
- 協力できない29名 その他9名
- 2：支援を依頼したい 近々1名
- 1～2年先 4名 将来 2名
- 3：料金 賛成59名 反対1名

実施に当たって、西区は地域的に広いので、別紙の通り5つのブロックに組分けしました。それぞれのブロックのお世話係りや支援者数10人をベースに決めましたが、29グループは第1ブロックに入りにくいなど難問がある、西区相互扶助センター(仮称)の設置など、これから検討する事項が多々ありますが、なんとか解決しながら、18年度実施に向けて、取り組んで行きたいと考えています。

西区会々員の
地域別人員数



第1ブロック				第2ブロック				第4ブロック			
地 名	人数	支援者		地 名	人数	支援者		地 名	人数	支援者	
1 北山台	4	0		10 狩場台	5	2		17 井吹台東	7	0	
2 富士見が丘	2	1		11 糺台	4	1		18 井吹台西	4	3	
3 高雄台	2	0		12 美賀多台	10	2		19 伊川谷町前開	1	1	
4 美穂が丘	3	1		13 竹の台	11	4		22 池上	2	1	
5 押部谷町栄	3	0		計	30	9		23 伊川谷町有瀬	2	1	
6 秋葉台	8	5						24 伊川谷町別府	1	0	
7 桜ヶ丘東	3	1		第3ブロック				25 白水	2	2	
8 桜ヶ丘中	2	1		14 櫻野台	3	3		26 玉津町新方	1	1	
9 桜ヶ丘西	6	0		15 春日台	8	6		計	20	9	
計	33	9		16 平野町西戸田	1	0		第5ブロック			
								20 学園西	7	3	
29 上新地	1	1		27 二ツ星	1	0		21 学園東	10	4	
				28 王塚台	2	0		計	17	7	
				計	15	9		合計	116	44	

パゴダの国 ミャンマー

国際交流を求めて3000里

国9 - 国 北山 秀俊

はじめに

9期は2005年3月に卒業した。神戸市シルバーカレッジ(KSC)は、3年になるとテーマを決めてグループを組み、1年間グループメイトと学習に励み、その成果をレポートに纏めることになる。

国際9期は2年生後半からテーマの決定とグループ編成に取り組み、3月にはテーマごとのグループの編成ができあがった。

私はKSCに入学の前年の2001年にNGO団体「神戸ミャンマー皆好会」に加入していたので、ミャンマーをテーマにしたいと思い、「もっと知りたいミャンマー」をテーマに掲げて呼びかけたところ、7名でグループ編成ができた。そしてテーマを「もっと知りたいパゴダの国ミャンマー」副題を「交流求めて三千里」と決めました。このレポートは共進牛乳の好意で冊子にもしているの、お読み頂ければ幸いです。

グループメイトは学習中にNPO法人となった「神戸ミャンマー皆好会」に会員として加入して学習をしてきたことや、その後国際9期から女性も加わり、現在11名が皆好会の会員として活動をしている。

2004年10月にグループ学習でミャンマー研修旅行を行なったのに続き、今年(2006年)2月に新たなメンバーを加え「わ」の一員として再度研修旅行を行い、福祉施設訪問、戦没者慰霊碑参拝、農民や日本語学校学生との交流など現地に接した学習を行うことができた。

なぜミャンマーなのか

1941(昭和16)年12月8日未明、日本は真珠湾を奇襲して米艦隊に大打撃を与え、マレー半島沖海戦では英極東艦隊を撃滅したが、それもつかの間、1942年6月にはミッドウエー海戦で日本海軍が大敗して、1943年には太平洋上の島々まではことごとく敗北していた。

ビルマを通じる援蒋ルート(蒋介石軍に軍事物資を運ぶ道路)を切断して日中戦争を有利に進めようとはじめたビルマ戦線も、制空権を奪われていた。大本营は1944年3月インパール作戦を発動した。インパールを3ヶ月で奪還せよとの命令に対し、20日分の弾薬と食料を与えられただけだった。兵士は飢えと戦いながら英軍と戦った。同年7月インパール作戦は中止され、撤退作戦と称された敗走がはじまった。英軍の追及、飢えとの戦い、マラリヤなどで兵士は倒れた。インパー



2004年10月戦没者慰霊碑参拝(サガイン・ヒル)

ル作戦での戦・病・餓死者は137,000名(丸山静雄著・インパール作戦従軍記)に上った。ビルマ戦線では18万人以上が戦死している。この敗走中の兵士が傷つき、病で倒れているところをビルマ人に命を救われている。中にはビルマ人が命がけで日本兵を助け出し水や、食料を与え一命を取り止めることができた。そして多くの兵士が再び日本の土を踏むことができた。

神戸の乳業メーカー共進牛乳の前会長中尾作蔵氏も命を救ってもらった1人だ。そして現在NPO法人を立ち上げ恩返しの活動を続けている。戦争中、激戦地だったサガインの僧立病院で活躍する吉岡秀人医師は訪問時に次のように語った。「戦没者慰霊団から、今から半世紀前サガインは激戦地で多くの敗残兵がビルマの人たちに命を助けられた。この話を聞きサガインを活動の拠点としたと話された。

鶴の恩返し

「ミャンマーは佛教国です。今の日本人に失われつつある“仏の心”“道徳心”を呼び戻してくれる」と、皆好会理事長中尾作蔵氏は言う。氏は永年ミャンマーへの恩返しの気持ちで、個人的に酪農支援、日本人墓地・メクテラで世界平和寺院の建立や寄付などの活動を行ってきた。現在、志を同じくする仲間と2005年1月にNPO法人の認証を受けて、ミャンマーへの農業支援としてピン・ウー・リン市郊外に150本梅の木を植林、梅干や梅酒の製造が期待されるようになった。

ティンミャンマー日本語専門学校は2001年設立されたミャンマー政府公認の学校で、KSCの講師として2002

年から3年間、ミャンマー問題の講座を担当されたティン・エイ・エイコ先生が校長を務め、ミャンマーと日本の架け橋になる人材を育成している。

皆好会は日本語教材、英語辞典に寄贈や日本語ボランティア講師を募集して派遣をしている。中尾理事長はピン・ウー・リン市

に交流会館を建設して日本ミャンマーの交流の場を提供している。

建学の精神で活動の継続

2004年10月グループ学習でミャンマーを旅した私たちは、2006年2月に新たなメンバーを加えて再び研修旅行を行なった。

研修目的は福祉に主眼をおいた。NPO法人グループわに英語点字クラブがあり、点字本を作成している。今回もその点字本を持参してヤンゴンとピン・ウー・リンの盲学校に寄贈した。ピン・ウー・リンの盲学校では女学生が早速、英語点字本を朗読したと聞いて私たちの目頭が熱くなった。

戦争中激戦地だったタウンジーの孤児院を現地旅行社の紹介で訪問した。クリスチャンで独身の3姉妹(長女2006年現在74才)が37年前に設立したと、長女のDaw Gyi院長がいわれた。院長は3歳の(次頁に続く)

(前頁から続く)の時に両親をなくし孤児になった。今ではこの孤児院で129人の孤児たちを養育されている。政府の支援を受けると規制が強くて自由に活動ができないので、援助は受けていない。世界のキリスト教団体の支援も届いていないといわれた。昼、食事中の子どもたちを参観した。

院長が言われた戦争中、この建物の隣に日本軍本部があり、米中軍の攻撃で撤退に際し、機密書類や武器もろとも建物を爆破した跡もそのままだ。私たちは訪問した施設で実情を見聞し、それぞれの施設に僅かですが寄付金と衣料品や文具を寄贈した。これらが少しでも役立てばと思う。



カウエチャン盲学校へ英語点字本贈呈

おわりに

国際部会で私たちの研修旅行の計画を申し上げたところ、会合参加者にカンパを募って頂きました。こころ温まる思いがしました。カンパは、ティンマンマー日本語専門学校の教材用マイク購入の一部として使用しました。そして今回研修旅行の報告文の寄稿の機会を与えて頂きましたことに重ねて御礼を申し上げます。

研修旅行とはいえ観光も含まれています。ヤンゴンでは金色に輝くシュエダゴンパゴダ、バガンでは大小2千基を越す仏塔、イラワジ河クルーズでの夕日の眺め、風光明媚なインレー湖観光、3年前から公開されたカック遺跡など心に残る旅行でした。

交流では梅農林での農民との共同作業や梅林で農民手作りの食事会をできたことや、日本語を学ぶ学生達との食事会、ショッピング、日本人墓地参拝など心に残る交流でした。

これからもボランティアと観光を含めた研修旅行を続けていけたらと思っています。(2006年3月18日)

文化部会

有馬よい湯ガイド

国5 - 文 中川正俊

神戸の奥座敷、有馬温泉を訪れる観光客の案内をはじめて約7年になります。シルバーカレッジ在学中、歴史探訪クラブの有志が中心になって、有馬観光ガイドボランティアグループを結成、現在会員は28名を数えています。

2月、8月のオフシーズンを除いて土、日、祝日に会員2名が交代でガイドをしています。ことに3月末から4月にかけてのシーズンには、1日の案内件数は300人から350人にもなります。

有馬温泉は江戸時代の頃から桜の名所として知られています。有馬川沿いのソメイヨシノは古木で見応えがあります。善福寺の樹齢270年の糸桜(しだれ桜)は市民の木に指定され多くの観光客が訪れます。また鼓が滝公園の有明桜は有馬六景の一つとして有名です。

この他にも秋の瑞宝寺公園の紅葉も綺麗だし、大茶会にも大勢訪れます。湯元坂には今でも江戸時代の名残

をとどめた旅館、町並み又史跡、神社、仏閣等歴史のある町です。

源泉めぐり、人形筆、有馬籠等のおみやげ、玩具博物館、切手博物館、太閤の湯殿間を訪れながら散策するのも楽しいものです。

季節を問わず退屈しない癒される温泉街有馬に是非一度、ゆっくりと訪れてみては如何でしょうか、われわれ有馬観光ガイドグループがもてなしの心でご案内いたします。



有馬温泉のガイドする会員たち(左)

イベントカレンダー

(有馬温泉道しるべより)

- 1月2日 入初式
- 4月上旬 さくら祭り
- 6月下旬 沙羅の花と一弦琴の鑑賞会
- 7月上旬 有馬七夕ひょうたん祭り
- 8月上/下旬 有馬涼風川座敷
- 8月上旬 ありまの夏祭り
- 11月上旬 有馬大茶会

グループ紹介 神戸ホタルの会

この会は生環9期生のグループ学習で実施した「しあわせの村にホタルを飛ばそう」を卒業後も引き続き生涯学習のテーマとして、昨年度から発足したグループです。現在会員数は12名ですが、どなたでも入会して頂けるよう門戸を開いています。

入会金と会費は特に決めていませんが、手持ちの資金が無くなってきた時に随時徴収しています。ちなみに昨年発足時に各人から3,500円を集めて活動資金に当てています。

活動内容は、しあわせの村の日本庭園にホタルを飛ばせるために、園内の水路にホタルの幼虫が成育するようにエサのカワニナを放流して観察を続け



したホタル
日本庭園で羽化

ながらホタルに関するイベントを見つけには適宜参加しています。

月に一度全員が集まって情報交換していますが、各自が常に自主観察やお互い情報収集に努めています。

近在の小中学校とも交流を計り、子供達のホタル学習支援も行なっています。日本庭園でのホタル飛翔実績は、2004年36匹、2005年12匹とまだまだ少ないですが、これを100匹~1000匹と増やして神戸の newName になればと願っています。詳しくはHP (<http://www.geocities.jp/souryupj/hotaru/>) をご覧下さい。

親子で集まれ

ベトナム料理塾開く

理事 - 郷 肥三



可愛い僕たちもベトナム料理に挑戦

1月22日(日)神戸市シルバーカレッジ調理室に、親子づれ22家族総勢68名の方が、参加してベトナム料理塾を開催いたしました。

講師はハ・ティ・タン・ガさん(NGOベトナムinKOBE代表)と打出真紀さん(NGOベトナムinKOBE)の2人をお願いしました。メニューは生春巻、鯛粥、バナナの春巻の3品を8テーブルに分かれて、それぞれ家族で協力しながら楽しく和気あいあい調理していました。

生春巻は野菜がたっぷりヘルシーな料理でした。バナナの春巻は珍しく比較的簡単に子どもたちも楽しく作っていた。家庭に帰って継続して子どもたちが料理作りに興味を持ってくれることを期待しています。

試食を済ませた後、ハ・ティ・タン・ガさんからベトナムの文化、子供たちの生活とか教育などについて話をさせていただきました。参加者の皆さんは非常に興味深く聞いておられました。

最近の知見によると、料理を行うことは脳を刺激し、心身を活性化することが解ってきたので、料理塾は今後とも機会があれば工夫して実施するテーマであります。

今回は長寿社会開発センターの後援を得るとともに、食文化9期生の協力を得て行われました。

ハ・ティ・タン・ガさんは「多くの人を教えるのに心配していましたが、リハーサルのおかげで、無事終了することが出来ました。シルバーといっても元気一杯の皆さんの姿はとてもうらやましく思いました。これからも宜しく願います」と話していました。

思わぬ出会いの合宿

手話コーラス部員が感激の交流

福8-文 山下 春美

1月24、25日フルーツフラワー・パークで、手話コーラス同好会OB・在校生の合同合宿を行いました。そこで思いがけない出会いがありました。定例のクラブ活動の練習では、時間的な制約や他の行事との重複等、満足な練習が出来ないと熱心な在校生からの要望で、今回の合同合宿となりました。宿舎に到着すると休む間もなく、約2時間猛練習をしました。

自由時間は三々五々、パーク内の大沢温泉「茜の湯」に浸かり、話に花を咲かせ、元気をもらいました。夕食時は、艶やかな笑顔で膳につき、ご馳走を肴に和気あいあいの談笑です。なかには得意の隠し芸等(手話コーラスだけではなく、部員一同芸達者ぶり)が飛び出す楽しいひと時でした。

ところが食事室前の手話コーラス

の名札を見て、福知山市身体障害者協会団体(30名)の幹事さんより「障害者のために是非、手話コーラスを教えてほしい」とお声がかかり、「見上げてごらん夜の星を」「夕焼け小焼け」など、誰もがよく知っている歌を演技したところ、協会の皆様も一緒に手を動かし、手話コーラスを楽しんでいただきました。

さらに芸達者な部員たちが銭太鼓やマジックをも披露して、友好を深めたのでした。

フルーツフラワー・パークでの合宿で、福知山市身体障害者協会の皆様と偶然の出会いでしたが、私たちの目標である「共に参加する手話コーラス」が、思いがけず実現することとなりました。また、神戸での楽しい思い出作りに寄与することが出来たのではと思っています。別れ際に皆様から「ありがとう」と喜びの声を聞かせていただき、部員一同、実りのある合宿にすることが出来たと、ボランティアの意義を感じています。

季節の草花

生8 - 久保 知彦

アブラナ

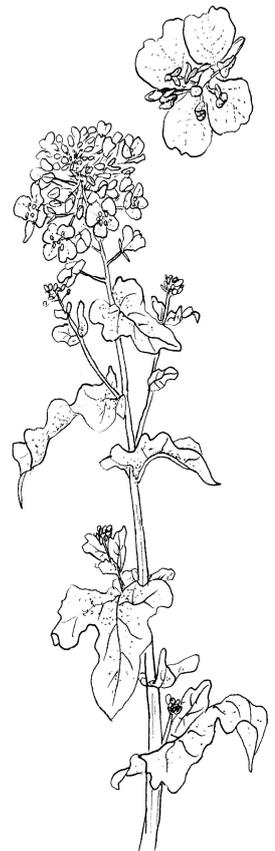
「菜の花や月は東に日は西に」(蕪村)「菜の花畑に入日うすれ...」(小学唱歌)と歌われた風景は過去のものとなりましたが、江戸時代には一面の菜の花畑がどこにでも広がっていたようです。

種子から菜種油をとり、その絞り粕が肥料に使われる油粕です。この菜の花こと「アブラナ」は、アブラナ科の植物です。

4枚の花弁が十字形に並び(かつて十字花科と呼んだ)6本のおしべ(その内4本が長いので四強雄蕊という)の花の特徴を持ったこの植物の仲間にはダイコンやカブラ、ハクサイ、キャベツなどの野菜、それにハボタンなどの花、ナズナ、タネツケバナなどの野の花があります。

最近では野生化したアブラナの仲間が堤防などに多く見られます。美しい風景ではありませんが、河川敷が富栄養化している表れでもあり喜んでいいものでしょうか。

かつて九州を旅したとき、本州ではまだ寒い頃に鹿児島県の開聞岳のふもとでは、一面にアブラナが満開だったことが印象的でした。



平成18年度こうべ環境未来館

環境学習講座(エコスクール)のご案内

こうべ環境未来館における平成18年度の環境学習講座の日程が決まりました。4月22日(土)の第1回「ビオトープの生きもの観察会」から1年間に15回を予定しています。受講対象は市内の児童館、小学生とその保護者、こどもエコクラブの皆さんです。地球温暖化の元凶ともいえるゴミ問題はじめ、自然保護、資源の活用などをこどもの時から学

習してもおうというものです。これまで環境未来館を中心に開催していましたが、交通の便などから近くの小学生や幼児の参加が目立っていました。本年からは“飛び出すエコスクール”として、全市的に巡回して広く参加を呼びかけることにし、ことし東灘、灘区の2箇所で開催しますので、各区会の会員の皆さんのお手伝いをお願いします。

四万温泉と草津温泉の旅

会員の皆様方にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。今回、下記の企画を致しましたのでお知らせいたします。草津温泉は、有馬、下呂と共に日本三名泉の一つに挙げられる素晴らしい温泉です。温泉、旅館についてはご満足いただけると思います。ご家族の方、お友達お誘いの上ご参加いただければと願っております。

記

日 時 ; 平成18年6月6日(火)~8日(木)

シルバーカレッジ : 午前8時出発

湊川神社正門前 : 午前8時30分出発

宿 泊 : 四万温泉 四万やまぐち館 TEL 0279-64-2011

草津温泉 ホテル桜井 TEL 0279-88-3211

費用 : 53,000円 (2泊、7食、添乗員同行)

募集人員 : 20名より催行します。(参加者少数の場合中止もあります)

募集締切 : 5月15日



	行程
一日目	シルバーカレッジ == 湊川神社前 == 《名神自動車道》 == (小牧) == 《中央自動車道》 == 駒ヶ岳 IC = レストハウス 駒ヶ根 12:30~13:30 (昼食) == 《長野自動車道》 == 上田・菅平 IC == (鳥居峠) == 浅間酒造観光センター == 四万温泉 やまぐち館
二日目	四万温泉 やまぐち館 9:00 == 薬王園 == 榛名湖 == 大蔵坊こばやし (昼食) 12:00~13:00 == 榛名神社 == 草津温泉、ホテル桜井 16:00
三日目	草津温泉、ホテル桜井 8:00 == 殺生ヶ原 == 白根山 (湯釜見学) == 《志賀高原ルート》 == 小諸 (渥美清こもろ寅さん会館 (昼食) 12:00~13:00 == おぎのや長野店 == 長野 IC == 《長野自動車道・中央自動車道・名神自動車道》 = 神戸市内 18:30頃

旅行費用支払方法については参加ご希望の方に後日ご連絡します。

お申込、お問い合わせは グループわ TEL 743-8101

又は大坪英二 TEL&FAX 709-2484 まで

講座の日程は次の通りです。

(場所記載ない日は環境未来館)

第2回 野草の観察とクッキング

食べられる野草を探して 春を味わおう

5月20日(土) 10:00~15:00

第3回 地球温暖化防止の学習会

みんなでエネルギーをつくってみよう

6月17日(土) 10:00~15:00

第4回 ごみと資源化の学習会

廃品を利用したりリサイクル 工作に挑戦しよう

7月17日(祝) 10:00~15:00

第5回 K O B E 環境大学入門

神戸の自然 シルバーカレッジ夏期講座として

8月上旬(別にご案内)

第6回 夏休み自由研究お助け隊

工作や昆虫、環境調べ等 宿題は出来たかな

8月20日(日) 10:00~16:00

第7回 飛び出すエコスクール

9月16日(土) 9:30~14:30

於 : コープこうべ生活文化センター (東灘区田中町)

第8回 K O B E 環境大学入門

廃棄物問題の現状を考える

10月9日(祝) 13:00~16:00

第9回 K O B E 環境大学入門

10月21日(土) 14:00~15:00

於 : しあわせの村たんぼぼの家

第10回 企業のエコ施設を訪ねる

10月28日(土) 10:00~16:00

於 : キリンビール神戸工場

第11回 秋の自然体験会

ビオトープにどんぐり

を植えよう

11月18日(土) 10:00~15:00

第12回 地球温暖化防止の学習会

ケナフから学ぼう温暖化

12月16日(土) 10:00~15:00

第13回 飛び出すエコスクール

ケナフから学ぼう温暖化

1月27日(土) 10:00~15:00

於 : 灘区内 (場所未定)

クリーン作戦と工作

第14回 企業のエコ施設を訪ねる

2月24日(土) 13:00~16:00

於 : 灘浜サイエンススクエア

第15回 野鳥の観察会

3月24日(土) 10:00~15:00

於 : 環境未来館周辺

福祉部会

優しさに触れた3年間

福祉部にかかわって

福6 - 福 芦原 耐子

気がつくとも3年間も福祉部とかかわりを持っていました。最初に福祉部を引き受けた時、後藤前々部長、柳内前部長をはじめとしているいろいろな方の温かい励ましとご協力により、これならやっていると安易に引き受けて3年間も経っていました。

今日も外出から帰ると、垂水養護学校の先生から日曜日にも拘わらず留守電が入っていました。きっと新しいボランティアの窓口となる係の先生が休日にも拘わらず電話を下さったのだらうと思いました。

そろそろキャンプの介助のボランティアの依頼が来る頃です。身の引き締まる思いがします。しあわせの村の「あおぞら」でのキャンプの介助や、生徒達がポニーに乗るため、車椅子での坂道を馬事公苑まで押します。

福祉の仕事は車椅子での介助が多いのです。やっと、上手に押したり引いたり出来るようになりました。真愛ホームの初詣、花見、夏祭り、入浴後の整容、すべて車椅子介助です。

探鳥から自然に接しよう

生3 環 中島 洋吉

「バードウォッチングを通して自然に接しよう」をテーマに、3月25日(土)環境未来館周辺で、環境学習講座が開かれました。都会から少し離れた未来館の周辺には沢山の野鳥を見ることが出来ます。

この日はスタッフを含め66名が参加、小春日和を思わせる陽気の中、ツクシも顔を出したあぜ道を歩きながら春の野外を楽しみました。親子たちは貸し出しの双眼鏡で、青空を飛び交う野鳥を追いかけます。「あの鳥、何というの」「この鳥

はセグロセキレイというの。きれいだね」とグループわの野鳥クラブの先生たちは質問攻めにあっていました。



双眼鏡で野鳥を追いかける親子たち

シルバーカレッジで習った筈なのにはじめは随分と戸惑いましたが、実践するうちにコツも覚え上手くなりました。どうぞ福祉部に協力しようと思われる方ご連絡下さい。自分が相手を通して見つめ直すことが出来るのではないかと、改めて気付きました。

知的障害を持っている子ども達とのケーキ作り、これもクッキーの会が中心となって作ります。こちら福祉部が大事にしているボランティアです。ケーキを作り終わって帰る際には、こども達と輪をつくり歌を歌って別れを惜しみます。ケーキ箱を大切に抱えて「又ね!」と、これも私の3年間で大切なことは何かを教えたボランティアの一つです。

振り返ると日常生活の中だけで過ごしていたらきっとこんな優しい人達に逢えなかったのではないかと思います。仲間の優しさ(男の人も、女の人も)にも触れ合うことも出来ました。

この3年間、いつも車椅子を押しながら、私の家族はこんな優しい私を見ることはないだろうなあ!と、変に自分に感心したり、自分を褒めたりして過ごして参りました。3年間ご協力下さいまして本当に有難うございました。

観察を終えたあと、みんなで観察できた野鳥の鳥あわせをしました。その後、もし鳥がいなくなったら自然はどのようになるだろうか などを中心に話し合いをしました。参加者たちは身近に存在する自然や、生きものの営みを感じ、自然を大切にすることを楽しみながら学びました。最後にこれから

の野鳥観察に役立ててもらおうと、観察ノート(探鳥マナー、野鳥の分類、観察の仕方)を配布しました。

頑張っています

建学の精神忘れずチャレンジ

音4 - 福 江田 正子

私は平成6年から「しあわせサポート in 北区」の一員として、しあわせの村内にある神港園の認知症患者の介助を続けています。翌年には阪神大震災でしあわせの村には仮設住宅が600戸余り建ったので、被災者の皆さんにモーニングサービスをして大変喜ばれました。

また平成12年にはリハビリ病院付属の老健施設「リハ神戸」がオープンしたのをきっかけに、私たちシルバーカレッジの先輩、後輩はじめ友人、知人に呼びかけて、新たに「グループリハ」(会員18名)を立ち上げました。入院患者のリハビリのお手伝いなどをさせて頂いていますが、昨年10月にはボランティア5周年を記念して、記念誌250冊を発刊しました。

来年はグループわの設立10周年ですが、私たちグループもイベント企画に参加させていただきたく思います。シルバーカレッジで学んだ建学の精神「再び学んで他のために」を今こそ発揮する時です。この4月に卒業された方々も是非、建学の精神を忘れずチャレンジしてくださいね。

編集後記

この春ほど地球温暖化が顕著に現れた年はないと思います。桜の開花が早いとの予報であったが、寒気の影響で普段の年より遅いくらい。それに山つつじが桜と一緒に咲き始めたり、タンポポが早や綿帽子をつける等植物への影響も見逃せません。

ヨーロッパでは集中豪雨による水害、モスクワでは異常寒波による死者も出ています。国内でも東北、北陸地方では豪雪による被害は大きくなっています。

筆者はシルバーカレッジの生活環境コースで学んだ事を活かして、いま環境未来館で環境問題のコーディネイトをしています。見学に訪れる自治会、婦人会の人たちは異口同音に「見学に来てよかった。ごみを減らす工夫を真剣に考えます」と。市民一人ひとりが身近な環境の変化を感じ取って行動を起してほしい。(ニシ)